

# 「信愛塾」の思い次世代へ

つなぐ

神奈川と共生

外国ルーツの子どもたち④

外国ルーツの子どもや 夫だからね」と励ましな  
その家族の支援活動を支  
い、今年で48年目を迎え  
信頼関係に基づき、家族  
のNPO法人「信愛塾」  
(横浜市南区)。活動の  
い支援を続けてきた。

原動力は、学校や行政の  
支援からこぼれ落ちるよ  
うな子どもを救おうとす  
るスタッフらの思いだ。  
「本当はこんな場所、な  
い方がいい」。竹川真理  
子センター長はそう願  
いながらも、支援が途切  
れることのないよう、次  
世に呼び寄せられて横  
濱に代にバトンを渡そう  
としている。

信愛塾に来る子ども  
たちのルーツはフィリ  
ピン、中国が中心で、他  
にバングラデシュやネ  
パールなどさまざま。竹  
川さんは家庭を訪問す  
ると、英語やタガログ語  
などを交えて親と話し  
ながら、小さい子ども  
を抱きかかえて体重や腕  
の太さを確認する。

台所では食事の準備が  
されている。部屋は片  
付いている。日々の生  
活を感じ取りながら、  
親が多いという。外見  
や名前を決して責めず、  
「大丈夫前をからかわれ、

## 行政支援のすき間をカバー

ンティティへの迷いが  
生じる例も少なくない。  
現場では年々、こうし  
た深刻な事情がある外国  
ルーツの子どもが増えて  
いる実感があるという。  
外国人の人口が急増する  
中で、行政の支援拡大が  
追いつかないことなども  
影響しているとみられ  
る。

行政も、支援に注力し  
ていないわけではない。  
信愛塾の近くには、横浜  
市立の日本語支援拠点施  
設「ひまわり」がある。  
来日直後の小中学生が約  
1カ月間、日本語を集中  
して学べる短期型の「学  
校」だ。

来日してすぐに日本の  
学校に転入するのには大  
きな壁がある。ひまわり  
では、本来通う学校の導  
入となるようなカリキュ  
ラムを用意。「水を飲んで  
ほしい」と話す。しかし、  
日本の国内人口が減少す  
る一方、今後は外国人の  
数が増えていくことが予  
想される。「共に生きる  
関係性を作っていくか  
ない」と大石文雄  
事務局長は活動続ける  
意義を話す。

約40年にわたり現場を  
見てきた竹川さんは、王  
さんがその役割を継いで  
くれると期待している。  
寄付で成り立つ運営は、  
近年は収支の赤字が続く  
が、なんとか継続策を探  
るつもりだ。王さんは「子  
どもらしく生きてほし  
い。その願いをかなえる  
ために、日々模索してい  
ます」と語る。



中国をルーツに持つ中学3年生の少女に、信愛塾特製の「卒業証書」を渡す王遠偉さん(右)。将来も同塾の運営を担う—横浜市で3月

### 会員や支援募集

信愛塾は会員や支援を  
募集している。寄付の振  
り込み先は、ゆうちょ銀  
行の口座番号「0027  
0-007501」で、  
口座名は「相談センター  
・信愛塾」。電話の問  
合わせは045・252  
・7862へ。活動内容  
や支援方法などは、信愛  
塾のホームページにも掲  
載されている。